

ニュートン別冊『からだの検査数値 改訂第2版』 正誤表

ニュートン別冊『からだの検査数値 改訂第2版』124 ページ下部「甲状腺の病気」の表に、以下の誤りがありました。お詫びして、訂正いたします。

	誤	正
甲状腺 機能亢進症	全身のあちこちの関節（手や指、ひざ、足など）がはれ、動かしたり、押したりすると痛む。朝にこわばった感じがある。女性（20歳前と更年期）の発症例は男性の約3倍。原因はよくわかっていない。	甲状腺におけるホルモンの合成と分泌の機能が亢進する状態。代表的な疾患はバセドウ病。特徴的な症状は、眼球の突出、頻脈、甲状腺腫、多汗、食欲旺盛、体重減少、微熱、手のふるえなどがある。
甲状腺 機能低下症	関節、皮膚、呼吸器、腎臓、眼の網膜、神経など、全身の多くの器官に炎症がおこる病気。発熱、顔面の赤い発疹、関節の痛みなど、多様な症状を示す。遺伝性、ウイルスの感染、免疫の異常が原因。	甲状腺の機能が低下して、ホルモンの分泌が不足する状態。全身の倦怠、皮膚の乾燥、顔面のむくみなどがみられる。
甲状腺がん	目や口に発症する乾燥症候群。全身性の自己免疫疾患。とくに40～60歳代の女性に多い。原因不明。主な症状は眼球と口腔の乾燥症。治療は乾燥症状に対する対症療法（人工涙液、人工だ液）のほか、ステロイド剤の投与などがある。	症状は、前頸部または側頸部の腫瘍が主である。そのほか、せき、声がれ、喉頭の圧迫感などがみられることもある。診断は頸部の触診、超音波検査、CTなど。
亜急性 甲状腺炎	指先から徐々に皮膚がかたくなってくる病気。中年の女性に多く発症。抗 Scl-70、抗セントロメア抗体という抗核抗体が陽性に出る。	甲状腺におきる炎症性疾患。原因は不明だが、ウイルスによると考えられている。甲状腺部が急にはれて痛むが、1～2ヶ月で完全に治る。中年の女性に多い病気。
慢性甲状腺炎	外部からの異物に対抗するため、体がそなえている免疫反応のうち、とくに病的現象としてあらわれるもの（右図参照）。	別名「橋本病」。炎症が軽度のときは甲状腺ホルモンの亢進症になるが、進行していくとやがて甲状腺機能低下症になる。甲状腺ホルモンに対する自己免疫でおこる。